

1998 年度「社会・意識調査データベース (SORD) 作成」事業報告

新國三千代・石井 和平・是永 論

1. はじめに

1998 年度は、札幌学院大学研究促進奨励金 (研究課題番号 SGUG98911405) を受けて、社会・意識調査データベース (SORD) の作成事業を進めている。本プロジェクトのメンバーは、昨年度と同様、新國三千代・石井和平・是永論 (札幌学院大社会情報学部)、盛山和夫 (東大文学部)、小島秀夫 (茨城大教育学部)、宮野勝 (中央大文学部)、稲葉昭英 (都立大人文学部) である。

今年度の主な取り組みは、次の通りである。

- 1) SORD ホームページの開設と運営
- 2) SORD データベースの追加蓄積
- 3) 第 7 回「社会・意識調査データベース」ワークショップの開催

今年度の取り組みで特筆すべきことは、SORD ホームページの開設と運営である。以下、これらの取り組みについて報告する。

2. SORD ホームページの開設と運営

1998 年 8 月から SORD ホームページを開設している。URL は、<http://postpc.sgu.ac.jp/SOCIO/sordhp/> である。昨年度の第 6 回「社会・意識調査データベース」ワークショップで本ホームページについて簡単に紹介しているが (是永・石井, 1998 a : 123-125), その後内容を変更しているため、改めてホームページの内容について報告することにする。更に、ホームページの開発/運用環境や利用状況、今後の課題についても報告する。

2.1 SORD ホームページの内容

図 1 は SORD ホームページの初期画面を示している。本ホームページの掲載項目は、図 1 の左側のフレームに記載されている通り、「ニュース」、「更新履歴」、「プロジェクトの紹介」、「蓄積情報の概要」、「調査概要の閲覧」、「求む! 調査概要」、「公開中の調査データ」、「関連する URL」、「交流の広場」、「事務局から」である。各項目の詳細は次の通りである。

- 1) 「ニュース」: SORD プロジェクトの活動に関する情報や催し物を掲載している。
- 2) 「更新履歴」: 本ホームページの更新や情報の追加、調査概要情報データベースの追加更新等の更新履歴を掲載している。
- 3) 「プロジェクトの紹介」: SORD プロジェクトのメンバーや活動の経緯、助成を受けた補助金等を掲載している。
- 4) 「蓄積情報の概要」: SORD プロジェクトで蓄積している情報やデータについて掲載している。蓄積している調査概要情報については、『日本の社会・意識調査(3)』から実施されている調査の単純集計結果を転載しており、どのような分野の調査がどの程度行われているか等、過去 10 数年間の日本における社会調査の実施状況を概観できるようになっている。
- 5) 「調査概要の閲覧」: 調査概要情報データベースを検索・閲覧するページである。調査概要情報データベースへのアクセスは「社会調査概要情報の WWW 掲載・閲覧要領」(新國他, 1998 b : 213) に則って行われ



図1 SORD ホームページの初期画面 (1999.2.2 現在)

ており、常に本データベースへのアクセス履歴を蓄積している。そのために、図2に示すように、「検索画面」に入る前にメールアドレスを入力するページが設けられており、逐次「アクセス履歴データベース」に追加されるようになっていく。この際メールアドレスを入力しなければ次の「検索画面」に進むことができない仕掛けになっている。また、同ページには、初訪問者に対し、名前と所属、学生か教員か等の情報を初回のみ入力してもらう欄も設けられている。これらの入力をお願いする形になっており必須のものではないが、今までアクセスしてきた者は全員入力している。「社会調査概要情報のWWW掲載・閲覧要領」では、情報提供者から了承を得た調査概要情報のみが検索・閲覧可能になっているが、1999年1月末現在で了承を得て掲載している調査概要情報は592件になっている。

「検索画面」では、図3に示す通り、検索

の方法や注意事項、使用例を見ることができるようになっている。検索項目は、通し番号、調査の代表者名（漢字／ひらがな）、調査の名称、調査の領域、調査の概要、調査開始年、母集団地域、調査方法などである。調査の領域は、チェックボックスになっており、検索したい領域をチェックするようになっている。調査の領域以外の項目は、基本的に利用者が与えた用語（数字も含む）を含む文字列を検索してくる部分マッチング方式をとっている。初期状態では、複数の項目を指定した場合は、検索条件は論理積（AND）となる。調査の領域を複数チェックした場合も同様である。この条件を論理和（OR）に変更することもできるようになっている。また、検索結果を任意の項目でソートして表示することもできるようになっている。

これらのページの使い勝手については、今後利用者の意見を聞いて改良していく必

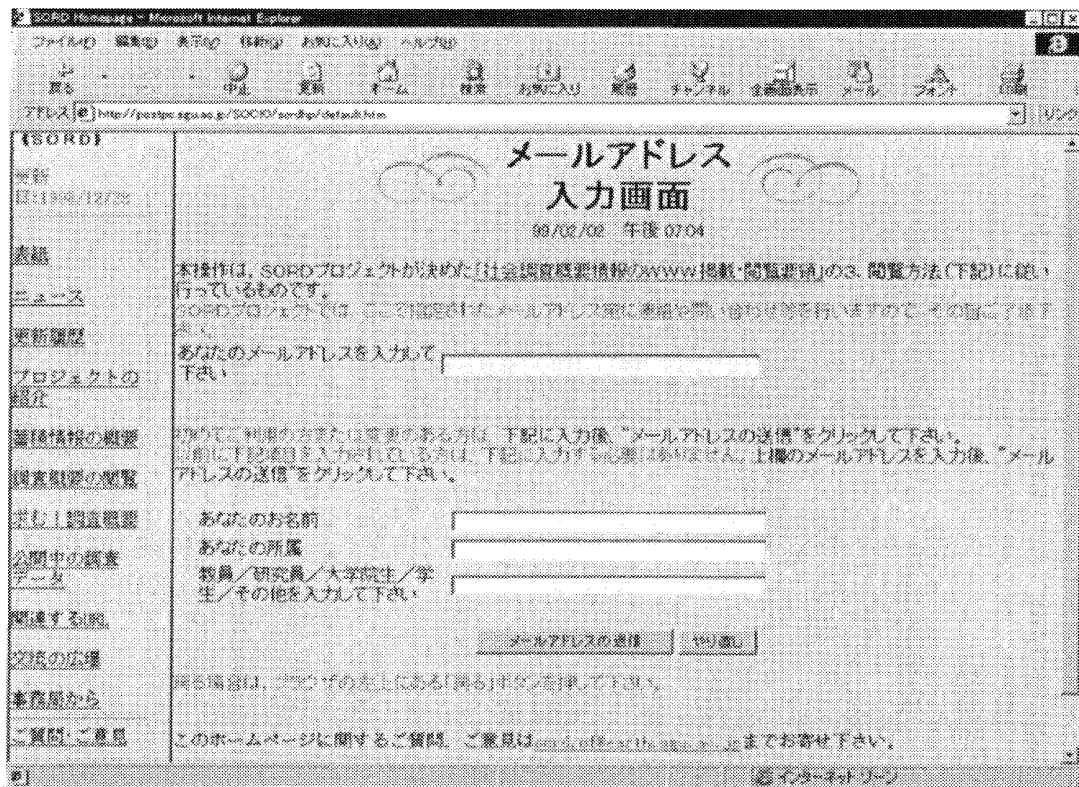


図2 メールアドレス入力画面

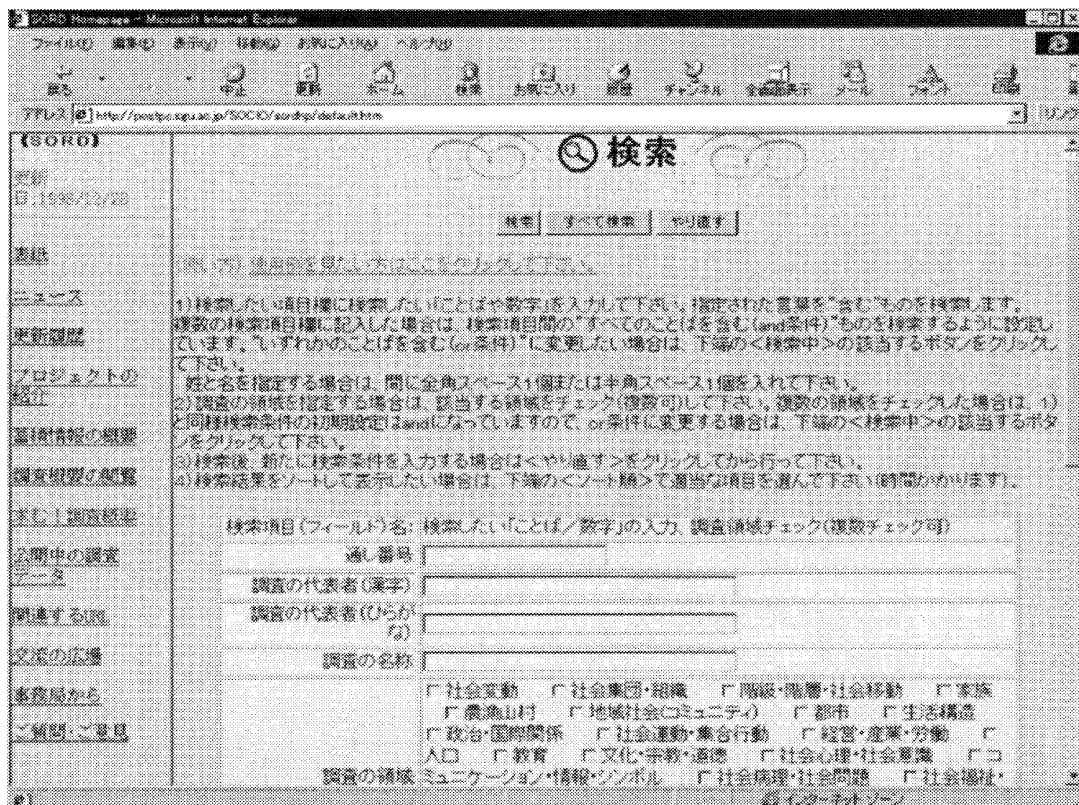


図3 調査概要情報データベースの検索画面

通し番号	調査の代表者	調査の名称	調査開始年
93011	天野 正子	「小規模自営業者勤労結婚女性の職業と生活」	1984.10
93012	白石 馨	中国・上海市郊農村調査	1992.06
93052	布部 鉄治	日本資本主義の展開と都市社会	1982
93079	片野 幸	信用金庫に対する地域住民の意識	1985.07
93084	山本 彌治	川口市住みこころ調査	1991.10
93085	川崎 道雄	鹿野町町民意識調査に関する意識調査	
93100	豊田 隆二	高校生の意識	1989.09
93129	天田 大雄	鶴巻及び山間集落における開発と社会・文化変容に関する調査	1990.06
93140	日本大学総合科学研究 所	現代家族の生活行動に関する個別調査	1988.07
93142	伊藤 彰彦(筑波大学)	巨大都市化に伴う地域社会の変動に関する調査(第1次から)	1987.07.08

図4 検索結果の一覧表示

要があると考えている。

検索結果は、図4のように表の形で表示される。更に通し番号をクリックして、図5のように詳細情報を表示させることができる。

- 6) 「求む! 調査概要」: インターネット経由で調査概要情報の提供を受けるためのページである。情報の提供者からインターネット経由で情報を提供できるようにして欲しいという要望が出されていたため、電子メールによる方式とWeb上で直接入力する方式の2つを検討してきた。取り敢えず、情報提供者が提供した情報を手元に保存でき、しかも、使い慣れた方法で行えることから電子メール方式を掲載した。基本的に、今までの紙媒体による調査票と殆ど同じ形式になっているが、出来るだけ入力し易いように選択肢の回答等はカットまたはコピーandペーストで行えるように工夫している。なお、提供された情報の信憑性

を確認するために、SORD事務局の方で名前と所属を確認し、折り返し確認の問い合わせを行う旨の断り書きをしている。

- 7) 「公開中の調査データ」: 本プロジェクトで作成した調査の個票データ(素データ)で公開しているものを提供者の了承を得て紹介している。図6に示す通り、現在11件の調査を掲載しているが、この内1件は、本年度ホームページが開設されてから本プロジェクトに自発的に提供の申し出があったものである。本ページには、データの利用規定(資料1)や、素データ提供者が本プロジェクトに提出する公開承諾書(資料2)、そして利用の仕方(まずSORD事務局を通してデータ提供者の承認を得、その後データ提供者に利用申請書(資料3)を送り、利用規定に従うことを誓約してから利用する)といった事務的な手続きも掲載している。現段階では、インターネットのセキュリティが完全ではないため、実際の

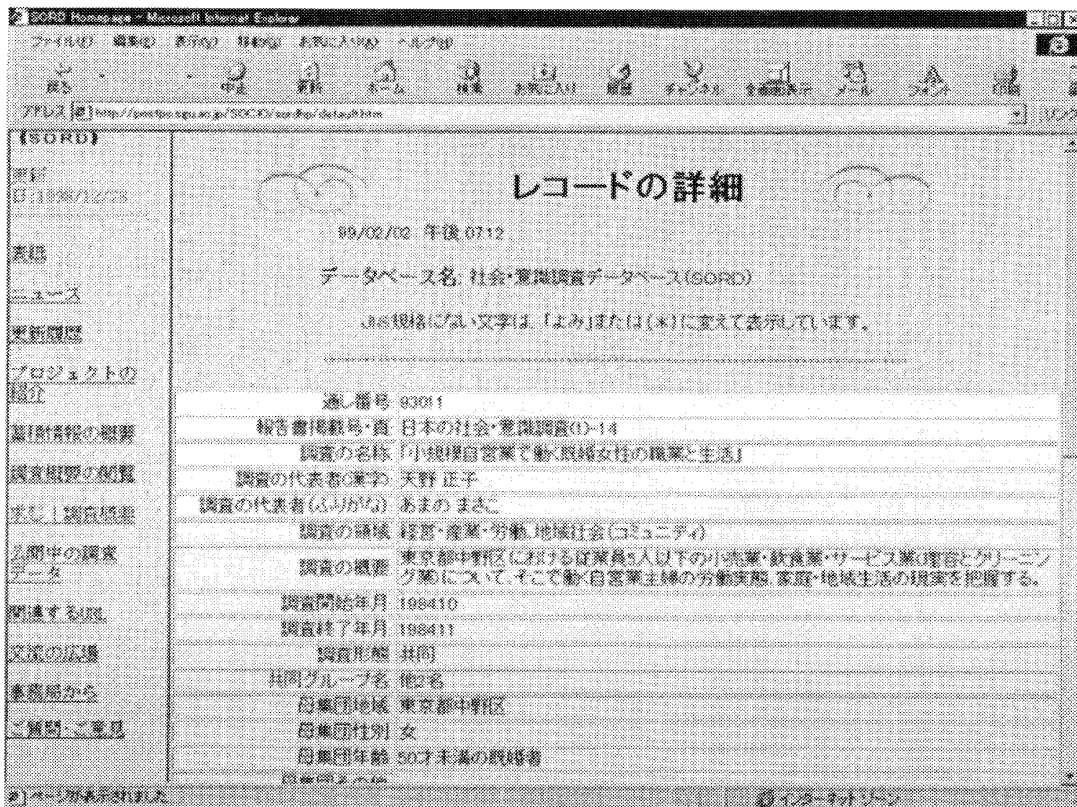


図5 検索された調査概要の詳細表示

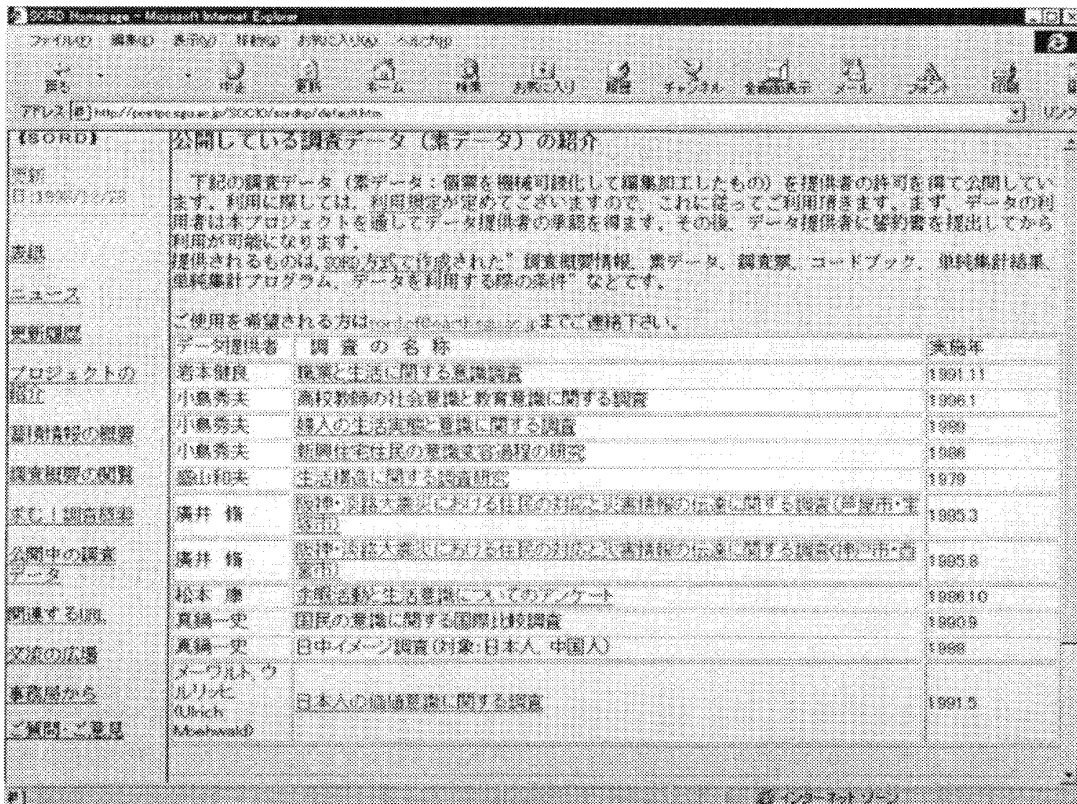


図6 公開中の調査データの紹介画面

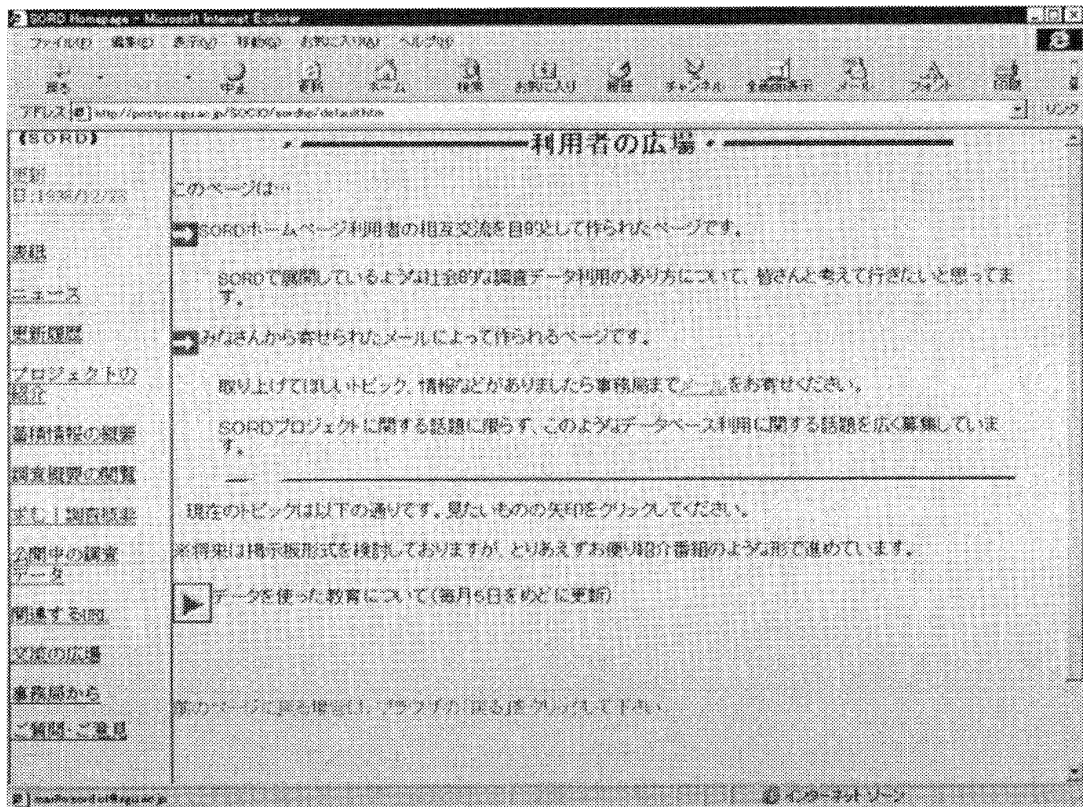


図7 「交流の広場」のページ

データの入手は本ページから行えないようにしており、SORD事務局から利用者にデータを郵送する形をとっている。

- 8) 「関連するURL」：インターネット上で情報の公開を行っている関係するサイトへリンクするページである。現在は、「日本社会学会文献情報データベース」、「SSJDAデータアーカイブ（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センター）」、「財家計経済研究所」のホームページにリンクできるようにになっている。
- 9) 「交流の広場」：これはホームページ閲覧者とSORDプロジェクト間の意見交換や閲覧者同士の情報交換の[場]を提供することを目的に設定したページである。このページは、他とは少し趣を変え、閲覧者が比較的気楽に参加できるように、本プロジェクトの若手メンバーの個性に任せて運営している。図7に示す通り、関心のありそうなトピックを取り上げて意見交換する

等の試みを行っている。今後、この場が有効に活用されて、閲覧者とSORDプロジェクトの間だけでなく、閲覧者間でも交流を深めていけるようなものになることを期待している。

- 10) 「事務局から」：SORD事務局から、情報提供者や閲覧者に対する連絡を掲載する。

2.2 SORD ホームページの開発/運営環境

本ホームページの開発では、ホームページとデータベースのリンクが問題になるが、専門家でない者でも行えるように、データベースソフトとしてファイルメーカーPro4を使用している。これは、ファイルメーカーPro4のWebコンパニオンという機能を用いると、Webブラウザとデータベース間のデータの受け渡しが容易に行え、Webブラウザからデータベースに簡単にアクセスすることができるためである。

ホームページとデータベースは、学部のWebサーバー機上に搭載している。このサー

パー機のOSはWindowsNTであるが、今までWindowsNTを使ってホームページを運営してきた経験から、実用に十分耐えうることを確認していたので、管理のし易さを重視してこれを選択した。

現在のところ、SORDホームページや学部のホームページに毎日アクセスがあるが、アクセス効率では特に問題になるようなことは起きていない。サーバーやデータベースの管理の容易さを考えるとこの選択は間違っていないように思われる。当面の問題はサーバーのバックアップであるが、これについては定期的に行う体制を整えつつある。また、停電対策や2000年問題についても対応が必要である。

2.3 SORD ホームページの利用状況

今年度8月からSORDホームページを開設し、10月中旬にSORDプロジェクトに情報を提供してくれた450名の研究者にハガキとメールで開設の案内をした。その後、ほぼ毎日ホームページにアクセスがあり、1月末までのホームページのアクセス件数は600件を超えている。調査概要情報データベースのアクセスの方は、1月末でアクセス数は40件程度である。ホームページおよび調査概要情報データベースのアクセス者は、教員や研究員、大学院生、学生で、リピータもいるが、殆どが社会学系の大学関係者である。現在のところは、本プロジェクトに情報を提供して下さった方々のアクセスは少なく、むしろそれ以外のアクセスが多い。情報の提供者でメールアドレスを持っている人は1割強程度と少なく、この分野ではインターネットを日常的に使用している研究者がまだそれ程多くないことによると思われる。しかし、現在のインターネットの広がりや速さを考えると、今後情報の提供者のアクセス数が増えていくことは間違いのないであろう。

ところで、調査概要情報データベースのアクセス数とホームページのそれを比較してみ

ると、前者は後者の15分の1になっている。「メールアドレスを入力してからデータベースの「検索画面」に到達する」方式(2.1の5)で解説)が、目に見えない形で利用者の障壁になっているのかもしれない。しかし、本当に情報を必要とする場合は、自ら名乗り出て情報を収集するのが社会的な常識であるので、このことが利用する上で大きな障害になっているとは考えにくい。実際、これについて苦言を述べてきた者はいないので、むしろ、まだ始まったばかりで、実際的な利用が行われるまでには至っていないためにアクセス数が少ないと考える方が適当であろう。その後、学生にデータベースを利用させるためにリンクを張らせて欲しいと言う教員からの要望も数件あったので、今後データベースのアクセス数は増えていくと考えている。

2.4 SORD ホームページ開設の成果と今後の課題

SORDホームページ開設後、国内外の社会学研究者から本プロジェクト宛に励ましのメールが届いている。また、リンクの承認を求めるメールや学生に使わせたい旨のメールも来ており、その反応の早さに驚いている。更に、調査データを公開用に提供したい旨の問い合わせもあり、ホームページを開設した効果の大きさを改めて認識している。

しかしながら、検討しなければならない課題もある。2.1の5)「調査概要の閲覧」でも述べた通り、調査概要情報データベースの閲覧は、「社会調査概要情報のWWW掲載・閲覧要領」に則って行われており、情報提供者から検索・閲覧について了承を得たもののみが検索・閲覧できるようになっている。現在のところ、情報提供者から了承のあった調査概要情報は592件となっている。これはSORDデータベースに蓄積された調査概要情報の約5割である。このような結果になっているのは、社会調査の分野で学術情報をインターネット上で公開するという試みが少な

く、「インターネット上で公開することが及ぼす影響について予想することができないため、実施状況を見てから考えたい」という情報提供者の気持ちの表れのようにも思われる。

現在の公開では、「社会調査概要情報のWWW掲載・閲覧要領」に基づき、個人情報などは掲載していないことや閲覧履歴をとるなどの方策をとっているため、当初心配していたような悪意の使われ方は今のところ報告されてはいない。しかし、このようなことを心配する研究者がいることも事実なので、掲載件数を増やしていくためには、本データベースを利用する申請を行った者だけがデータベースを利用できるような方式に変えることを検討する必要があるかもしれない。いわゆるクローズドな公開方式にするということである。

例えば、厳密性は若干落ちるが、データベースの利用申請時にメールアドレスをユーザーIDとして登録する形にすると、現在入力しているように、メールアドレスが入力されたときに既に登録されていれば「検索画面」に到達するようにできる。これは、画面構成を従来のままにして内部の仕掛けを変えるだけで実現できる。このような環境が実現すると、警戒心が薄れ、検索・閲覧可能な調査概要情報の件数が増えることが期待できる。しかし、この問題については利用者の意見も聞いて再検討したいと考えている。

3. SORD データベースの追加蓄積

今年度は、13名から47件の調査概要情報が提供された。また、3件の調査について素データの作成を行った。この結果、現在SORDデータベースに蓄積されている調査概要情報の総件数は1,192件、素データは28件になる。今年度新たに提供された調査概要情報については、入力・校正後データベースに追加蓄積され、一部はホームページから検

索・閲覧が可能になっている。また、素データについては、既にデータを公開していることをホームページ上で紹介している。

今年度最も特徴的なことは、研究者自らが自発的に本プロジェクトに情報を提供するようになってきたということである。今までにも自発的な情報の提供はあったが、今年度提供された47件の調査概要情報は、すべて研究者自らが自発的に本プロジェクトに提供したものであった。また、今年度作成した素データ3件の内1件についても研究者の方から本プロジェクトに申し出があったものである。これは、本プロジェクトの活動が研究者の中に浸透してきている結果と考えてよいであろう。

4. 第7回「社会・意識調査データベース」ワークショップの開催

3月6日に、第7回「社会・意識調査データベース」ワークショップを開催する予定で準備を進めている。ワークショップでは、1) 教育・研究におけるデータ利用・活用の事例報告、2) 素データの提供の申し出があった場合の承認体制のあり方、3) 教育・研究における素データ利用・活用事例をつくる方策、4) 今後の素データの作成・蓄積方針、5) 本プロジェクトと社会学会との関係等について報告と議論を行うことを予定している。プログラムは次の通りである。

日 時：1999年3月6日（土）13時～17時

場 所：札幌学院大学C館4階会議室

プログラム

13時—13時10分

挨拶 新國三千代（札幌学院大社会情報学部）

13時10分—15時

「教育・研究におけるデータ利用・活用の事例報告」

司会 石井和平（札幌学院大社会情報学部）
価値意識データの利用例

小島秀夫 (茨城大教育学部)

日本家族社会学会のNFR予備調査データの配布と成果のまとめと公表について

稲葉昭英 (都立大人文学部)

NSFH および消費生活に関するパネル調査の素データ配布システムと研究者の組織化について

永井暁子 (家計経済研究所)

社会調査実習教育における事例

是永論 (札幌学院大社会情報学部)

15時15分—17時「討論」

司会 新國三千代 (札幌学院大社会情報学部)

話題提供 盛山和夫 (東大文学部)

- 1) 素データの提供の申し出があった場合の承認体制のあり方
- 2) 教育・研究における素データ利用・活用事例をつくる方策
- 3) 今後の素データの作成・蓄積の方針
- 4) 本プロジェクトと社会学会との関係等について

5. おわりに

本年度11月に科研費特定領域研究「統計情報活用のフロンティアの拡大の総括的研究—マイクロデータによる社会構造解析—」主催の研究会で、SORDプロジェクトの試みについて報告して欲しい旨の依頼があり、本プロジェクトを紹介する機会を得た(1998c)。近年、社会学の様々な分野でデータベース化活動が活発化しているが、7年程前から地道に進めてきたSORDプロジェクトの活動が他

の分野からも評価されている結果と言ってもよいであろう。また、昨年度から連携してデータベース活動を推進してきた東大社会科学研究所の日本社会研究情報センターとも相互にリンクを張り合い、ホームページ以外でも緊密な情報交換を行っている。

以上、本年度はホームページを開設したことにより、SORDプロジェクトが大きく外に向けて動き出した年と位置付けてよいであろう。

謝辞

本プロジェクトは、札幌学院大学研究促進奨励金(研究課題番号SGUG98911405)および学部の財政的援助を受けて行われている。ここに記して感謝の意を表する。

参考文献

- 是永 論, 石井和平(1998a)「社会・意識調査データベース (SORD) プロジェクトとホームページの紹介」『社会情報』Vol.8 No.1: 121-125
- 新國三千代, 石井和平, 是永 論(1998b)「1997年度「社会・意識調査データベース (SORD) 作成」事業報告」『社会情報』Vol.7 No.2: 207-213
- 新國三千代(1998c)「サーベイデータアーカイブについて(報告)」『マイクロ統計データの公開利用の現状と未来についてのセミナーおよび第6回全体研究集会』, 主催: 科研費特定領域研究「統計情報活用のフロンティアの拡大の総括的研究—マイクロデータによる社会構造解析—」, 東京, 1998年11月。

資料 1

「社会・意識調査データベース (SORD)」利用規定

社会・意識調査データベース作成プロジェクト

1. 利用資格

大学等の社会学研究者とする。

2. データの利用

本データベースの利用は、学術研究および教育利用のみに限定する。利用方法は下記の通りである。

① 調査概要データの利用

報告書または「社会・意識調査データベース」ホームページ上で検索・閲覧することができる。

② 素データの利用

素データとは、「素データ作成フレームワーク」(SORD方式)に従い、調査データを編集・加工したものである。利用する際は、下記に従う。

1) 本組織で定める所定の様式に従い、本事務局宛に利用を申請する。

2) 利用を申請した者のみが利用できる。

素データの複製や第三者に譲渡することを禁ずる。

3) 利用に際しては、素データの提供者が指定した公開条件に従い利用する。

4) 素データを用いて報告書や論文等の執筆を行う場合、データ提供者名および素データの入手先(「社会・意識調査データベース (SORD)」作成プロジェクト事務局)を明記し、素データの提供者が当該データについてまとめた文献を引用することを義務付ける。

5) 論文等を作成したときは、その印刷物2部を「社会・意識調査データベース (SORD)」作成プロジェクト事務局に送付する。内1部は素データの提供者に送付するものである。

6) 使用後は、速やかに素データを消去する。

3. 料金

当分無料とする。

(1993年10月制定)

(1998年10月改訂)

資料2

調査データの公開に関する承諾書

「社会・意識調査データベース（SORD）」

作成プロジェクト事務局 殿

調査名 _____

(調査実施年や当該調査を識別するための情報も記入)

承諾年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

承諾者名 _____

所 属 _____

電話 _____ FAX _____

e-mail _____

上記調査データについて、「素データ作成フレームワーク」（SORD方式）に従い作成した素データを下記の方法で公開することを承諾します。

記

1. 素データの利用許可

事務局に利用申請があった場合は、下記の方法で利用を許可します。

() 利用申請書に基づき、事務局が利用の許可、不許可を決める。

() 利用申請書に基づき、承諾者が利用の許可、不許可を決める。

2. 利用に際しては、「社会・意識調査データベース（SORD）」利用規定に従い、利用者と承諾者間で誓約書を交わす。1. で事務局に許可を任せただけの場合は、事務局がこれを代行する。

3. 提供するデータセット

「素データ作成フレームワーク」（SORD方式）に基づき下記のことを事務局に提供する。

() 調査概要情報

() 素データ

() 調査票

() コードブック

() 単純集計結果

() 単純集計プログラム 言語 [SAS SPSS その他 ()]

() データを利用する際の条件

4. 利用に関する問い合わせ先

() 事務局 () 承諾者

5. その他

資料 3

社会・意識調査データ利用申請書

大学
殿

下記の要領で、素データの利用を申請します。

なお、利用に際しましては、「社会・意識調査データベース」利用規定に従うことを約束します。

申 請 者	申請年月日	年 月 日
	氏 名	
	所 属	
	所 属 先 住 所	
	所 属 先 電 話 番 号	
	e-mailアドレス	
希望する調査データ		
希望する媒体		
希望する添付物		